

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200319		
法人名	特定非営利活動法人 ゆい佐久間		
事業所名	おおらかハウス		
所在地	浜松市天竜区佐久間町相月2062		
自己評価作成日	令和 2 年 1 月 21 日	評価結果市町村受理日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvossyoCd=2297200319-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護する上で「おおらかに こまやかに さりげなく」をモットーとして、おおらかに関わり、細やかに感じ取り配慮し、さりげなく接するよう心掛けている。しかしこれは究極のテーマであり常に自己点検を迫られている。また低所得の方々にも利用していただけるように運営上経営は厳しいものの利用代金を低く設定している。地域との関係は良好で防災訓練や各種行事、地元での活動に多くの協力・援助をいただいております。事業所としては地域と持ちつ持たれつ関係を築くため施設の開放を常に考えている。また利用者に対しては日中の活動として着物の糸ほどこき作業を取り入れほどこいた端切れを製品化して幅広く販売。取り組む利用者にとってやりがいにもなっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の施設であるため、地域密着型の施設として地域住民との結びつきが強く、行事のボランティア参加や防災訓練など交流・協力体制ができている。資源回収などの協力のほか、着物のリメイクのための糸ほどこき作業やバザーなど、利用者が地域社会との関わりを持ち続けられるように、長年支援を続けている。
長く勤務している職員が多く、経験をもとに利用者の様子を把握し、穏やかに過ごせることを目指し支援している。職員研修として、他の事業所での体験実習の機会を作り、職員の資質向上に努めている。2か月に1回、運営推進会議や誕生祝を兼ねた食事会には家族の参加を促して、家族と直接話す機会を多くし、家族同士の交流にも役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた事業所としてオープンな付き合いを心がけている。地域の方々に施設の機能を利用してもらおうと思っているが、まだ充分利用してもらえていない	事業所理念を、利用者・職員が集まる居間に掲示し、朝ミーティングの折り等を利用し、職員同士常に確認しながら支援をしている。日々の気づきは業務日誌や申し送りノートで共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や野菜をいただいたり行事で準備した食品をおすそ分けしたりする近所つきあいを続けている。今年度は夜間の防災訓練に地元自治会の自主防災委員会を中心に多くの方に参集・協力いただいた	理事長・職員も地域出身者であるため、地域とのつながりが強く、「NPOゆい佐久間」新聞を全戸配布したり、食事会でのボランティアなど、交流ができています。地域業者や住民の協力を得て、資源回収の取り組みや、和服のリメイク作業支援を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	数年前には認知症サポーター養成講座を開催したりしたこともあり、認知症の方々とその家族を継続的に支援したいと考えているが入居体験や1日介護体験を企画しても応募がない。施設の活用は一部してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状態について詳細にわたって報告し委員の方々の理解は得ていると思っている。新たな問題提起、ヒントとなる意見もいただいている	2か月に1回、高齢者相談センター・佐久間協働センターなどの行政・地域代表が参加し、近況報告や意見交換を行っている。家族の参加を増やすため、土曜日午後や行事開催日に行うなど、工夫して実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最寄りの行政の窓口である協働センターを通して本庁の担当者に現場を知ってもらおうと推進会議への出席をお願いしたが実現していない。推進会議の報告を通して現状を伝えることしかできていない。二階の活用については民泊について市の担当者に相談にのっていただいた	地域ケア会議に参加して情報交換したり、運営推進会議の議事録や「NPOゆい佐久間」新聞を届けて、情報を共有している。災害時の電源確保や事業所2階の活用など具体的な取組の相談を行っている。意見交換により、利用者通院時の送迎代(ガソリン代)徴収は理解を得ることができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年より身体拘束適正化検討委員会を3か月に一度開催し事業所の現状について問題点を検討し職員全体に投げかけて定期的に評価を行っている。それにより改善もみられている	3か月に1回、「身体拘束適正化に向けた職員会議」を開いている。「おおらかハウスチェックシート」を作り、グレーゾーンの対応について職員同士で振り返りを行っている。取組内容は運営推進会議にて報告し、情報交換を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の症状及びそこからくる言動への理解に立ち返り言葉での叱責も虐待につながる行為との認識から言葉遣いの見直しなど進めている		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見について具体的に該当する案件がなく取り組めていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問について伺ってその後の対応につなげている。今後のホーム運営についてその課題をご家族に提示する機会をつくり説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月々の利用報告を通して家族の意見を聞くようにしている。利用者には特に場は設けていないが常に要望などに耳を傾けるようにしている。運営推進会議にご家族の参加をお願い率直な意見交換を目指している	直接会って話をするを大切にしている、訪問時だけでなく、2か月に1回、誕生会を兼ねた食事会を開催し、家族との意見交換の場を設けている。運営推進会議には家族の参加もあり、家族の意見を聞くことができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員の会議を通して意見や要望、提案をもらっている。直接意見を出せない人のために投書箱も設置しているが利用者が少ない	ベテランの職員が多く、都度意見交換ができています。月1回の職員会議や、「おおらかハウスケア改善チェックシート」を活用し、職員の意見や要望を聞く仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	二階の改修により休憩時に利用してもらえる場を確保した。また宿直体制を導入したことで夜間の夜勤者への支援が可能となり業務の負担軽減を図った		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なかなか外部での研修に出てもらえない状況であるため職員会議の中でミニ講座などを毎回実施しその時々に必要な知識や技術を職員が習得できるようにしている。今年度は出前講座を活用し3度講師を招いた		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は近隣の事業所の協力を得て体験実習を実施しその事業所の運営に触れ多くの示唆が得られた。管理者もそれぞれの推進会議に相互に参加しあうようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ不安を引きずらないように声掛け等丁寧に行い対応しているつもりである		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する家族がうまく馴染んでくれるかがどのご家族にとっても不安であり心配するところであるためホームでの生活をイメージしやすく伝え不安を少しでも取り除けるように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域のロコトレ教室や食事会などに参加したりすることで生活意欲や身体機能の向上につながっているケースもありインフォーマルサービスの活用がプラスになっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主役は入居者という思いを生活の中で具体化させるよう常に話しているがなかなか思うように実現できていない		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理想は常にご家族と連絡を取り合い状態の共有と対応の共有を図ることだがそうはいかない。以前よりホームとの関係は密になってきてはいるが関わりの薄いご家族もありともに支えるという関係は難しい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設入所しているご家族に会いに行ったり地元の食事会に参加するなどして関係の維持に努めているが一部にとどまっている。今年度は個別の希望にあわせた外出を企画し実施した	利用者個別の希望に合わせた外出支援を行っている。実家に帰ったり、馴染みのスーパーやお花見に出かけている。長年入居している利用者には、施設の前の川沿いの散歩など、現在住んでいる場が馴染みの場所となるよう支援している。	事業所2階フロアは、家族会などを行う際に利用しているが、地域住民に積極的な活用を働きかけ、更なる馴染みの場所としての関係を築くことを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士と一緒に過ごせるよう配慮し自然に支え合える関係を作れるよう援助しているが認知症の進行度合いや性格や気性の違いにより関係づくりの難しいケースもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院中の方1名について情報は得られているが相談・支援は特にしていない。それ以外は死亡による退居となった方である		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いを受け止めて可能な範囲でそれを尊重する対応をしているが応えられていないことは多い。意向を表出できない方については常にその思いを推し量るような姿勢が引き続き必要と思う	「おおらかハウスアセスメントシート(私の姿と気持ちシート)」を活用し、家族の移行の聞き取りを行っている。常に利用者の様子から思いを推し量り、職員皆で支援を行うことを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握には努めているがご家族の記憶に頼る部分が多く若い頃の生活歴など情報が不十分な部分もある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の職員会議で特に変化のある方について状態とその対応について確認し合うと共に、日々の関わりの中で状態の変化に気を留め必要な対応がすぐにとれるよう意識して関わっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員が立案しご家族に提示、了承を得て作成している。関わる職種が少なく医療職や地域の専門職などに関わってこられていない。困難事例について地域ケア会議で報告したことはある	業務日誌には利用者個々の目標が記載されており、都度状態を把握することができる。利用者ごとに担当者を決め、介護計画作成時に意見を反映している。他の事業所と協力して、職員の実習研修を行い、より良いケアができるよう情報を交換している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活についての記録は介護日誌にまとめて記録しており。特記事項についてはケース記録への記入もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添いや入院時の物品の補充など行うことで本人の状態の把握や病院の関係者との意思疎通をより図れるようにしている。また自宅への帰省や家族への面会なども可能な範囲で援助している		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人暮らしを支える地域の援助組織の活動に施設入居後も参加させてもらっている方はいらる。また地域の行事にも可能な範囲で参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を選択してもらい定期的に通院援助することで医師との関係を維持している。また定期的な往診を通して嘱託医に日常的な健康管理をお願いしている	入居時にかかりつけ医を決めてもらい、通院が必要な場合は、継続して通院できるよう支援している。月1回、提携内科医師や歯科医師の往診を受け、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護師の来訪時にそれまでの入居者の状態を伝え必要な医療的対応をしてもらっている。また看護師のアドバイスも受けて必要な医療機関の受診もしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は病院と情報を共有し早期退院のための治療や円滑な入院生活のための話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でできる医療的ケアや終末期の対応について説明し家族の意思を確認している。また年に一度その意向を確認し直すようにしている。終末期医療が必要な場合は嘱託医やかかりつけ医に往診してもらうようにしている	重度化した際の対応について、入居時に利用者・家族に説明している。年1回家族の意向を確認している。緊急時には、協力医院やかかりつけ医、訪問看護師と連絡するように、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の中で繰り返し事態の見極めについて学習し実際の訓練も行ったが、今年の課題として考えている外部から専門家を招いての実践的な講座の開催はまだ実現できていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年初めて実際に夜間の避難訓練を実施した。地元自治会の全面的な協力を受けスムーズな避難ができた	水害の際の避難訓練や夜間避難訓練を実施し、自治会住民との協力体制を確認している。大規模災害時対応マニュアルや備蓄品台帳を備え、防災ずきんや備蓄状況を管理している。災害時の電源確保などの検討や対応の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止の一環として身体拘束適正化の話し合いの中でそれぞれの関わりについての振り返りをやっている。これまでに比べ改善してきているがまだ不十分な点も残っている	「おおらかハウスチェックシート」をもとに、配慮した言葉かけができるように、職員同士、都度振り返りをやっている。「身体拘束適正化に向けた職員会議」を利用し、情報交換を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	確認可能な方にはその意志を確認し希望に沿って援助しているがまだ十分できていないとは言えない。特に意志を表出できない方の思いをくみ取ることが難しい。また意志を表出してもそれに沿って援助することができないこともある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで生活していると思うが職員が業務に追われていることもあり希望通りの生活ができているとは言い難い。施設での集団生活という制約の中で仕方ない面もあると思う		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気を配っている。自分で考えてしている方には本人の好みを大事にし職員の思いを押し付けないようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はほとんどの方が楽しみにしている。準備や片付けもできる方と一緒にしているが職員の都合で入居者の力を生かし切れていない面があると感じている	共に楽しく食事ができるように心掛け、支援している。2か月に1回、誕生会を利用した食事会には、家族の参加も多く、煮物・天麩羅などを手作りしている。食事の配膳や片付けなどは、利用者と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックし不足しないように配慮している。水分もできるだけ摂ってもらうようにしている。栄養バランス上問題がある方もいるが少しでもバランスがとれるよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の月一度の訪問があり口腔内の異常の発見に努めている。磨き方についてもアドバイスを受けている。ただ毎食後の口腔ケアはできていない		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	少しでも快適な生活ができるよう紙パンツは最小限とし布パンツを併用するなどしている。また可能な限りトイレでの排泄を心掛けているが排泄パターンに合わせてのトイレ介助が十分できているとは言い難い	排泄チェックシートを活用し、日中はトイレを利用してもらうよう、声掛けを行っている。風呂場にはトイレが併設されていて、入浴時にも利用しやすい。各居室にもトイレ・洗面所が設置され、夜間も安全にトイレ利用ができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに食物繊維の多い食品を意識して取り入れるなどしているが解消できていない。早期解消に向けて個々の対応をしているが薬に頼っているのが現状		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴やその時間帯についての要望や不満は聞かれない。ただ入りたい時に入れるという状況にはない。必要性により臨時に入浴してもらったりお湯の温度や入浴に要する時間は柔軟に対応している	利用者の状態に合わせて、入浴支援することを心掛け、午後週3回入浴できるように支援している。機械浴を希望する利用者には、2人介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力の落ちている方には日中も横になる時間を設けている。また寝心地の良い寝具や寒さ対策によりよく眠ってもらえるようになった方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬をお薬手帳などで確認し、変更等の情報はその都度申し送りしている。副作用については状態の変化がみられるケースについてはその関連性を見極めるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り家事などに取り組んでもらい張り合いを感じてもらおうようにしている。また地域のロコトレ教室に通うことで馴染の方々との出会いを楽しみにしている方もいる。日中仕事として着物の糸ほどこきを張り込んでいる方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	悪天候の日以外は毎日一度は散歩に出るようにしている。また年に数回遠出の外出を実施。施設内では季節の行事のほか誕生会や敬老会などを行っている。個人の希望に合わせた外出も今年度は全員一度実施した	事業所の前には天竜川の支流があり、日々散歩を楽しんで、近所の方とも挨拶をしている。利用者個々の希望に合わせた外出支援を計画し、ラーメン・餃子を食べに行く方や花の好きな方は緑花木センターへの買い物、実家への里帰りなどを実践することができている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に小遣いとしてお金を使ってもらうことはあるが日常的には使う機会もなく所持していない方がほとんどである。一部小銭を持っている方はいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話したいとの申し出があれば電話してもらっている。家族からの電話を期待しているがごくまれにしかかかってくることはない。手紙のやり取りは今はない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの空間も家庭的な造りにして違和感のないように設えている。また季節に合わせた花や飾り物を飾ったり、実施した行事の写真を掲示したりして季節や生活を感じてもらう工夫をしている。寒さ、暑さが厳しい地域であるため空調には注意を払っている	エアコンだけでなく、灯油ストーブやこたつを利用して、利用者が入居前と同じような環境で過ごせるよう、居心地の良い空間作りを心掛けている。雛人形を飾るなど、季節・行事に合わせて飾りつけをしている。玄関が広く、地域の方も訪問しやすい。食卓機のほか、ソファが置かれていて、利用者は好みの場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる空間として何箇所か寛げる場所を用意し仲間とともに過ごしたりひとりで過ごしたりと自由にしてもらっている。相性を考えて炬燵を2箇所を増やしたことで不要なトラブルを回避している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴染んだダンスや小物など持ち込んで家庭での生活に近い場となっている方もいるが持ち込み品が少なくやや寂しい方もいる。居心地と使いやすさを併せ持った空間にするための創意工夫は今後も続けていきたい	居室には、トイレ・洗面所が設置されているため、夜間も安心して利用できる。使い慣れた品物を持ち込み、利用者それぞれの居室作りをして、居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは部屋の前にあり見渡しやすいわかりやすい構造にしてある。また部屋にはトイレと洗面台があり夜間も自力で生活できる。可能な場所には手すり等を設け、玄関も低い段差にして自力で移動できるように配慮している。		